

実施計画事業評価調書

評価対象年度 令和 5年度

事業名称	赤山城跡保存整備事業			担当	教育総務部 文化財課	
事業区分	通常事業	—	問い合わせ先	222-1061	新規・継続	継続

1 事業期間・根拠等

事業期間	平成 2 年度 ~ 年度
第5次川口市総合計画	Ⅲ 産業や歴史を大切にしたい“地域の魅力と誇りを育むまち”-5 地域資源の活用-② 歴史的資源の保護と活用
根拠法令等	文化財保護法、埼玉県文化財保護条例

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち義務的なもの	実施形態	一部委託
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの) 赤山城跡	受益者(最終的に受益を受ける人) 市民等	
事業の概要	事業の目的(何のために) 県の旧跡で本市の重要な歴史遺産である「赤山城跡」の公有地化整備を行うもの。	事業の内容(事業期間を通して何をするのか) 「赤山城跡」の保存整備をはかるため、売却要望のある土地の購入を行う。	
当該年度の 実施内容及び 成果	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか) 県指定旧跡赤山城跡の保存整備用地の購入を行った。	事業の成果【定性的評価】 堀や遊歩道に面する用地の一部を購入し、史跡の保存を図るとともに、その活用に供することができることから、赤山城跡に対する市民意識の向上につながった。	

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称	公有地化			指標・目標値の説明(算定式)	旧跡の公有地化			
	単位	m ²	指標の種別	結果					
	目標値	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度			
	実績値・達成状況	1,566.00	1,567.94	485.00	1,728.00	0.00			
指標②	名称				指標・目標値の説明(算定式)				
	単位		指標の種別						
	目標値	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度			
	実績値・達成状況								

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	川口市一般会計	10 款	6 項	8 目	2 細目	2 細々目	赤山城跡保存整備事業		
年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度				
予算額(A)	21,008	48,178	17,636	61,636	61,636				
決算額(B)=(C)+(D)	20,807	42,432	17,636						
財源※									
特定財源(C)	0	38,100	15,800	55,400					
一般財源(D)	20,807	4,332	1,836	6,236					
概算人件費(E)	3,950	3,850	3,950	4,050	4,050				
従事職員人数(人)	常勤 再任用	0.50 0.00	0.50 0.00	0.50 0.00	0.50 0.00	0.50 0.00	0.50 0.00	0.50 0.00	0.00
総事業費{(A)又は(B)}+(E)	24,757	46,282	21,586	65,686	65,686				

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民のニーズ	高かった	15 /15	有効性	期待どおりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民のニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	どちらともいえない	13 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	13 /15
	業務プロセス改善	改善の余地なし			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	活用の余地なし			対象者への周知	行った	

6 総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性	
54 /60	保存整備対象地が広大で、買収及び整備に長い年月を要するため、史跡の有効的な活用を検討した購入を行っていく。	翌年度	現状維持で実施
		翌々年度	現状維持で実施

担当課	文化財課
事業名	赤山城跡保存整備事業

I 定量評価（評価の各観点について、一定の基準に基づいた数値による評価）

	評価の観点					選択肢	
	①趣旨・目的及び達成手段	②事業の効果	③事業の効率化	④課題解決への取り組み	⑤今後の事業の方向性		
A委員	2	2	2	3	3	4 適正	適正な事業運営がなされている
B委員	2	2	2	2	2	3 概ね適正	工夫や改善の余地があるが、概ね適正な事業運営がなされている
C委員	2	2	2	2	1	2 改善の必要あり	概ねこのままの事業運営で差し支えないが、工夫や改善が必要である
D委員	3	2	2	2	2	1 抜本的見直し	抜本的に事業の運営を見直したほうがよい
E委員	2	2	2	2	2		
F委員※	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)		
G委員※	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)		
委員会全体	2	2	2	2	2		

※ 当日欠席のため、評価は参考値であり、全体の評価には反映されていない。

II 定性評価（評価の各観点について、意見やアドバイス等のコメントによる評価）

No.	評価の観点	評価コメント
1	①趣旨・目的及び達成手段	歴史的な跡地なので趣旨は理解出来る。
2	①趣旨・目的及び達成手段	趣旨目的や存在価値も個人的には理解しているが、市全体のコンセンサスとまでは言えない。
3	①趣旨・目的及び達成手段	ヒアリングを始めた当初は見直しの必要性を感じたが、今回コンセプトの見直しが提示されたことで、改善の必要ありとした。
4	①趣旨・目的及び達成手段	やはり市民に対して理解とアピールが少ないと感じた。
5	①趣旨・目的及び達成手段	気持ちの上ではこのまま進めてもらい、立派な博物館や都市公園の完成を見たいが、あまりにも莫大な費用が掛かることを考えるとこのままではいけないと思う。
6	①趣旨・目的及び達成手段	市民にとっての事業の必要性に対して、事業規模が大きすぎると感じる。文化事業は大切だと思うが、市民にとっては、自分たちの生活に係る行政サービスが充実したうえで、余裕があれば予算を投じることは理解できるが、地方債を発行してまで、多額の予算を投じる場合、必要性は理解されにくいと思う。市民に理解される事業規模を検討すべきである。
7	②事業の効果	この事業の効果・有効性について、現地を確認したが、効果があるとは思えなかった。
8	②事業の効果	もっと歴史的な価値が分かるような工夫が必要ではないか。

No.	評価の観点	評価コメント
9	②事業の効果	現地を視察し、現状で有効活用している市民がいることはわかったが、ニーズとしては低いように見受けられる。
10	②事業の効果	現在、県や国からの補助がなく、今後も見込めないという理由で、事業予算は市民の払う税金から払われているのであれば、歴史の専門家の価値ではなく、市民にとっての価値をベースに事業の効果を見直すべきだと思う。
11	③事業の効率化	これ以上の用地買収や建造物の建築は白紙とし、今あるものを保存し活用するのであれば良いことだと思う。
12	③事業の効率化	整備のしやすさなども考慮に入れ、事業規模を再考して、実施可能な計画を作成すべきだと思う。
13	④課題解決への取り組み	今後、コンセプトと事業の見直しが行われ、重点的なものの整備と保存に変えるという方向性が示されたので、適正であると評価した。
14	④課題解決への取り組み	歴史的な重要度をもっと市民に伝え、知名度を上げるべきである。
15	④課題解決への取り組み	プロジェクトの全体像やゴールやロードマップなど、その都度の評価が不十分だと感じた。それは市民の理解を得る努力が不足しているということでもある。
16	④課題解決への取り組み	まずは多くの市民にこの土地のことを周知し、活用方法を探してほしい。社会科見学や学校行事等で子どもたちに愛着を持ってもらえないのか。
17	④課題解決への取り組み	市民の価値に基づいた事業規模の再考と実施可能な計画を作成すべきである。
18	⑤今後の事業の方向性	遺跡など文化財の評価はなかなか難しく、一概に効果が見えるものではないが、イイナパーク内に歴史資料館も出来たことから、計画を見直した方がいいのではないかな。今のままだと、今後30年間経っても何も変わらないのかもしれない。
19	⑤今後の事業の方向性	単に事業を縮小するだけではなく、部分的に陣屋跡がわかるような見学コースを作ったりすると、もう少し市民は興味を持ってくれるのではないかな。
20	⑤今後の事業の方向性	市民の価値に基づいた事業規模の再考が必要。
21	⑤今後の事業の方向性	財源が潤沢に使えるのならよいが、やはりそこまでの必要性は感じられないので、縮小やむなしと思う。
22	⑥事業全体を通じた総合的な評価	どんなに素晴らしいものであっても、財政的な制約がある以上、全てを残すことはできないという当たり前のことを受け入れる必要があるのではないかな。今まで投資した分、やめたらもう回収できなくなるからという理由で続けることが、結局後世に禍根を残すだけだと思う。一度立ち止まって考えるべきであり、本当に今の市の状況や日本の将来を考えた時に、どこかのタイミングでやめるのではないかなと感じたら、残酷なようだがすぐにやめた方がいい。社会を維持していくために、何らかの選択をしなければいけないのなら、撤退するという選択肢もあるのではないかな。
23	⑥事業全体を通じた総合的な評価	すばらしい事業だとは思いますが、その価値は人それぞれ異なり、私が現地を見た時には正直よく分からなかった。根本的なことではあるが、その価値をもっとアピールするとともに、他市の成功例を参考にしたいと思う。

No.	評価の観点	評価コメント
24	⑥事業全体を通した総合的な評価	文化事業は市民にとって優先順位が低い。その中でも歴史的な文化事業は、一度訪れたら十分という場合があり、城のように形に残っていて観光的価値がないと、大々的に実施するのは難しいのではないかと。歴史的価値を否定するものではないが、市民にとっては今の生活の方が大事なので、それぞれの事業の重要度や、他の事業規模とのバランスを考えていくことが必要だと思う。
25	⑥事業全体を通した総合的な評価	この場所も歴史も事業も今回初めて知った。 歴史的に価値あるものということは理解したので、何とか現地を保存し活用してほしい。
26	⑥事業全体を通した総合的な評価	全体を通して、担当課も計画の見直しを行い、コンパクトにしていく方向性が見えたので、今後も頑張っていたきたい。

【評価結果まとめ】

①趣旨・目的及び達成手段	
2 改善の必要あり	歴史的な価値は認めるが、今までやってきたことについては、きちんと見直しを行い、今後どうするかを考えていくべきである。
②事業の効果	
2 改善の必要あり	事業予算は市民が払う税金で負担しているのであれば、歴史の専門家の価値ではなく、市民にとっての価値をベースに事業の効果を見直すべき。 実際に現地を見学に行った委員も効果や有効性について疑問を感じており、有効活用しているのは一部の市民のみで、全体のニーズとしては低いのではないかと。
③事業の効率化	
2 改善の必要あり	これ以上の用地買収や建造物の建築は一旦白紙とし、今あるものを整備するなど、実施可能な計画を作成すべきである。
④課題解決への取り組み	
2 改善の必要あり	今後コンセプトの見直しと事業範囲の縮小を折り込んだ保存整備に変えるという方向性が示されたのは良かったが、歴史的な重要度をもっと市民に伝え、知名度を上げる努力が必要である。
⑤今後の事業の方向性	
2 改善の必要あり	財源が潤沢に使えるのならよいが、この事業にそこまでの必要性は感じられないので、方向性としては縮小となっても仕方ないのではないかと。ただ、単に事業を縮小するだけでなく、イイナパーク内に歴史資料館が出来たことから、部分的に陣屋跡が分かるような見学コースを作ったり、市民の価値に基づいた事業規模や計画に見直した方がいいのではないかと。
⑥事業全体を通した総合的な評価	
	もし事業を進めるのであれば、例えば一部分だけでも、陣屋だったと分かるようなものを残す。それができないようだったら、残酷だが直ちにやめた方がいいという意見もあった。他市の類似事業で、再建やそれに似せたやり方で、当時の雰囲気を残しているような事例があれば、それを参考にしてみようか。やはり計画を立てたら、どのように実現するかの方針を示して、都度立ち止まって考えるということも大事だと思う。